

会議等経過報告書

1. 件名	平成30年度 第1回 大船渡市立図書館協議会
2. 日時	平成30年6月7日(木) 午前10時00分～午前11時10分
3. 場所	大船渡市民文化会館 会議室
4. 出席者	委員：江刺由紀子委員、上関みさ委員、今野隆弘委員、山崎友子委員、藤村敏夫委員、川村俊彦委員 図書館：千葉館長、水野補佐、吉田係長、佐々木主任、中井司書
会議等の内容	
<p>1. 開会（進行：水野補佐）</p> <p>2. 委員紹介 千葉館長が、資料中の名簿に添って紹介。</p> <p>3. 会長及び副会長選任 会長及び副会長の互選について、どのような方法がいいか諮ったところ、事務局一任との声あり。事務局から、会長に上関みさ委員、副会長に藤村敏夫委員を提案したところ、了承された。</p> <p>4. 会長挨拶（上関会長）</p> <p>5. 館長挨拶及び職員紹介</p> <p>6. 報告 報告第1号 平成29年度図書館事業の実施状況及び利用状況について（吉田係長説明） 報告第2号 平成29年度図書館資料購入（所蔵）状況について（吉田係長説明）</p> <p>■（江刺委員） 貸出者数が2,345人減で、冊数が1万冊減では、あまりにも激減している。これは人口減少という言葉で済まされる問題ではない。激減していることについて考えはいろいろあると思うが、危機感を持ってほしい。また、平成24年度からの減少傾向があまりにも急激、特に28年度から29年度が尋常ではないが、どのように考えているか。 人口1人当たりにつき何冊読んでいるかというデータを出してもらえないか。それにより、人口減少でなく、市民がどの程度の割合で読んでいるかがはっきり出てくる。後で出してほしい。</p> <p>選書や図書館の魅力づくりが一番。魅力をどうやって作っていくか、例えば、資料では平成29年度に企画展が14回もあり一見素晴らしいが、よく考えてみれば、だいたい一ヶ月に1回くらい。本日の資料には、何日～何日まで開催したと書いてあるものと、書いていないものがあるが、こういうデータの取り方にも危機感が表れていない。様々な魅力を発信していくことが大事。</p> <p>どうしたらみんなに使ってもらえるか、市民の声を聞くことが大事では。 利用者が離れてしまわないよう、利用者にとって居心地がいい場所であるためにどうしたらいい</p>	

か、利用者目線で考えること、利用者の声を聞くことが大事。具体的には、カウンターで対面した際に、「利用についてお伺いしたいのですが」と聞き取るのもいいかも。そうすれば、「もっとこういうところをよくしてほしい」「こういうところが使いにくい」などと聞き取れると思う。

また、対面では言いにくい方もいる、かといって提言箱では尻込みしてしまうので、「皆さんのお声を聞かせて下さい」というような感じにすれば書いてくれるのでは。

私ども「おはなしころりん」の交流図書室には、市立図書館では物足りなくて流れて来ている利用者がある。そういう声を拾えればいいのか。

「おはなしころりん」では、この度、大船渡市防災観光交流センターの2階部分を、企画運営することになった。そこにいらした方々の声を聞くために「ころりんさんにお手紙を書こうコーナー」を始めた。まだ、開館して1週間も経っていないが、かなりの子供たちから手紙をもらった。「クッションが良かった」「ピアノをやって楽しかった」「これからも頑張ってもらいたい」「大小にお話しに来てくれてありがとう」など。私は、これをすぐに張り出したり、返事を書いたり、また、要望があればすぐに取り入れるようにしている。そうすることで子どもたちは、自分たちの意見が取り入れられたと喜び、また来てくれると思う。

このように、仕掛けることを戦略的に考えていただきたい。

(上関会長)

貸出点数の減少については、これまでも話題になって来たが、これといった決め手や打開策がない。事務局ではどのように捉えているか。

また、江刺委員から要望があった、人口1人あたりの貸出冊数のデータは今分かるか。

(吉田係長)

後ほど確認のうえ作成したい。

(千葉館長)

貸出者数と冊数だが、震災後、平成24年度の再開当初は、本を読みたいと希望する方が多数いたが、その後は徐々に減って来ている。復興の状況等もあるが、減少の原因の究明はなかなか難しい。

平成29年度に大きく減っている要因としては、陸前高田市立図書館が29年度中に開館した影響もあるのかと。登録者数が27年3月末現在で14,200人程度あり、そのうち市外の登録者が2千人という状況。

反面、陸前高田市立図書館ができたことによって、相乗効果により当館の利用促進にもつながるのではと期待している。これまでは、図書館は図書の提供が主だったが、これからは市民の意見を聞いて、いつでも来られる、楽しく過ごせる図書館づくりに努力して行きたい。

■ (川村委員)

減少している年齢層が分かれば、対応の仕方が変わってくるのでは。

(千葉館長)

参考にしたい。

■ (江刺委員)

毎年、市で行っている「市民意識調査」で、図書館の利用促進を探るための質問を投げかけてはど

うか。

(千葉館長)

担当課とも話してみたい。今年の調査に、図書館の項目はなかった。ただ、市民からは市民会館についてはあるが、図書館に対してはなかなか意見が出てこない。

(江刺委員)

意見が出て来ないのは、良い評価は言いやすいが、良くない評価は言いにくいということではないか。信頼関係を築くために、もっと近づくのも大事では。

(千葉館長)

「市民意識調査」にどのように載せるか工夫も必要。これまでの質問項目は、個別的なものはあまりなく、全体的なものが多かった。

■ **(上関会長)**

資料に載っているのは、借りた冊数・人数だが、図書館には、新聞を読んだり、雑誌を見たりする人も。来館した人数のデータはないのか。

(吉田係長)

以前は、機械によりカウントできたが、今は機械が動かなくなった。冊数に反映されないが、人が来ているのはわかる。実際、カウンターで貸出手続きをせずに帰る利用者は、一定数いる。

(上関会長)

その方たちが、更に本を借りるようになれば良いと思う。

(吉田係長)

利用減の一つの要因として、陸前高田市立図書館の開館もあると言ったが、データを見ると、陸前高田市立図書館が開館した7月から減少傾向が激しく、陸前高田市に住所のある方を抜き出すと、貸出者数で4割減っている。やはり、近くの図書館を利用したいという考え方があるのでは。

これからは、大船渡市民を対象に、取組をしていかなければならないと考えている。

(江刺委員)

利用者数は、震災前に戻りつつあると捉えられる。この資料には震災前のデータがないので、震災前のデータを知る必要がある。

陸前高田市立図書館ができたのは去年の7月。平成24年度から減ってきているので、違う問題では。

■ **(今野委員)**

以前の会議で、飲食関係について話しが出ていたが、どういうふうな形で進めるのか、のんびり過ぎたり、ちょっとおしゃべりしたりするところもあっていいのでは。

(上関会長)

(市民会館のレストランについて) 昨年度、コーヒーマーカーを置くことなども話題になったが、

その後はどうなっているか。

(千葉館長)

まだ、はっきり決まっていない。レストランは、建設当初からワークショップを開催したりしてきたもので、人が来ないからやめるということもできない。

ただし、市民の意見を聞いて今後の方針を決めたいと思っている。どのように聞くか、意見のとり方を内部で検討しているところだ。

(上関会長)

声を聞くということで、そのあり方について検討し実施して行くということでよろしいか。

報告第3号 平成30年度図書館事業計画について（吉田係長説明）

■ **(藤村委員)**

学校図書館協議会で一番大きな話題は、「青少年読書感想文コンクール」と「大船渡市」のコンクールを抱き合わせにできないかということ。現在の学校の状況は、なかなかコンクールに時間が取れず、国語より外国語など違うほうにシフトしている。できれば抱き合わせにして、市のコンクールを通して、県の方に上げてやる形にはできないものか。

また、学校現場でも貸出者、冊数共に減少している。昨年度、蔵書は300冊多くなったが、やはりただ置くだけではだめで、働きかけが大事だと思う。

市立図書館でも、図書館見学など利用促進の取組を積み上げることが大事。

(佐々木主任)

読書感想文コンクールの主だったものに「青少年」「岩手日報」「大船渡市」があるが、やはり、そもそも主催が違う。そのため実施時期の違いや、応募は「未発表のもの一人一点」などの決まりもあり、市のコンクールを通して上げるといった統一は難しいということだった。

その代わりに、学校の負担を軽減するために、各学校が指導や応募がしやすいよう「部門区分」や「規定枚数」を他コンクールと合わせたり、募集期間を長くしたりして、配慮している。

■ **(江刺委員)**

去年の秋の協議会のときに、どのように予算が使われているのか進捗状況を伺った。予算600万円のうち、半年で3割くらいしか使っていなくて、残りの半年でその多くをつぎ込まなければならないという状況だったが、やはりこれは年間計画として、毎月コンスタントに消化していくことが大事。

今年度、4月、5月はどれくらい購入したか。

(上関会長)

今は、6の事業計画について諮っているのですが、購入計画については、次の7で協議したい。

7. 協議

協議第1号 平成30年度図書館資料購入計画（案）について（吉田係長説明）

■（上関会長）

まず、先ほどの江刺委員の質問についてお願いします。

（佐々木主任）

一般図書の購入分では90万円ほど発注（納品）しており、2割ないし15%程度である。

一方で、図書館の資料収集は、購入だけで形成されているものではなく、寄贈・献本、年度を跨いで継続的に行っており、一概に金額だけでは言えない。

（千葉館長）

平成29年度は職員が一名減となり、秋の時点では進んでいなかったが、いろいろ努力し今後も計画的に購入や除籍等進めていきたい。

（山崎委員）

図書の購入は新しいものも良いが、何が求められているか考え購入してもいいのでは。

（千葉館長）

購入にあたっては、全てが新しい本ばかりではない。時期や状況など踏まえながら購入等している。

（上関会長）

昨年度、クッキングや旅行など、手に取りやすいような本があったらいいのではと話したが、カウンターあたりに並んでいたのが良かった。手軽な本が全てとは思わないが、そうした本が読書の入り口になればいい。

その他の意見はなし。議長、退任。

8. その他

特になし。

9. 閉会